

歴博研究映像アンコール上映会

モノ語る人びと

津波被災地・気仙沼から

日 2018
時 10.31 (水) 10:25~12:50 (開場 10:15)
会 熊本大学
場 全学教育棟 E205 教室

【プログラム】

10:25~10:45 映像解説

10:45~11:48 映像上映

「モノ語る人びと 津波被災地・気仙沼から」63分

11:48~12:50 質疑応答

【司会】 山下 裕作 熊本大学大学院人文社会科学部 教授

【解説】 葉山 茂 国立歴史民俗博物館 特任助教

【対象】

民俗学概論 | 受講者
熊本大学文学部希望学生
熊本大学大学院社会文化科学研究科大学院生
一般市民

【お問い合わせ】

096-342-2462 (山下裕作)
h563f@kumamoto-u.ac.jp

【映像趣旨】 2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震による津波が宮城県気仙沼市を襲った。生活を立て直すなかで、地域の人びとは土地のかさ上げ工事や集団移転のための宅地造成などを経験した。それは慣れ親しんだ家財や景観、空間などのモノを失う経験だった。この変化のなかで、人びとは災害前に育んできた生活や文化とどう向き合っているのだろうか？

国立歴史民俗博物館の職員は地域の人びとの協力を得て、被災した気仙沼市小々汐にあった築200年の旧家・尾形家住宅の家財を集め、保全してきた。活動のなかで所有者や地域の人びとがモノを手がかりに過去の暮らしを語る場面に出会い、映像に記録した。この映像では人びとがモノを語る営みに注目して、人びとが過去をどう語りようとしているのか、現状とどう向き合おうとしているのかを紹介し、文化を継承する意味を考える。

本映像は国立歴史民俗博物館基盤研究「歴史・民俗研究の資源としての映像の制作・保存・共有と歴博型プラットフォームの構築」および人間文化研究機構広領域連携型基幹研究「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」・「地域における歴史文化研究拠点の構築」の成果の一部です。

主
催



共
催

